

☆公害による健康被害を許すな!
☆自然環境・生活環境の破壊を許すな!



タンチョウ
画:橋本正弘

大阪から公害をなくす会 ニュース

大阪から公害をなくす会

〒540-0026 大阪市中央区内本町2-1-19
内本町松屋ビル10 370号
TEL 06-6949-8120
FAX 06-6949-8121
E-mail : oskougai@coast.ocn.ne.jp
URL http://oskougai.com/
発行責任者 芹沢 芳郎
年間購読料一部2,000円(送料共)
郵便振替 00910-7-300387

化学物質の体に及ぼす影響におどろく!!

寝屋川「容器包装廃プラ再生処理施設」現地調査

11月16日、大阪から公害をなくす会は15団体40名近い参加で、今問題になっている寝屋川市内の「容器包装廃プラスチック再生処理施設」への現地調査を行いました。

問題とされる工場は、北河内四市リサイクル施設組合(かざぐるま)とリサイクル・アンド・イコール社が道路を隔てて向かい合って建っています。皮肉なことに真横を2010年3月に全線開通した第二京阪高速道路が走っています。周りは緑の多い小高い丘の窪地になっていて、接地逆転層が発生することがよくわかる地形です。反対側の山手には寝屋川市の廃棄物処理工場があり、この日も高くそびえた煙突から煙が真っ直ぐに上がっていました。

はじめに、「かざぐるま」の施設を見学、枚方・寝屋川・四条畷・交野の四市から収集された日量約50トンの廃プラの処理工程をビデオと作業場を見ながら説明を受けました。近代的な設備と言っても、最後は人の手

による選別がされています。説明では混入した異物は全量の約5%と言われますが、見た限り腑に落ちない数字です。異物の中味では「使い捨てライター」が問題で火災の原因になりました。工場内は当然ゴミ独特の匂いがしますが作業員は普通のマスクだけで、職場環境は決して良好とは言えません。

ここで、300kgに梱包され、PETボトルは専門再生工場へ、廃プラはお向かいの「イコール社」に運ばれます。イコール社は事前の見学申し込みを拒否、作業工程を見学できませんが、塀の隙間からの異臭流出を実感しました。気管の弱い私は喉がいがいが咳が出てきて慌ててマフラーで口を押さえました。

現地交流会では、被害者の生の声を聞きました。「1日に3回ぐらい体を洗い流している。」「体が過敏になり味覚障害も出ている。」「普通のアレルギー検査では原因物質が検出されなかった原因は廃プラではないかと言われた。」また6月に東

京杉並病を診察した先生に診ていただいた11名全員が中枢神経機能障害があると診断されたとのことでした。

最後に、参加者全員が廃プラを搬入する周辺4市と寝屋川保

寝屋川廃プラ現地見学について

7、8年前当時の事務局長林功氏と共に見学に行った前回の寝屋川廃プラ問題、地元の人々の説明ではここに高速道路「第二京阪道路」が通るからと丘陵地や竹藪を切り開いて造成中、こちらは廃プラ工場ができること説明されていたのでリサイクル施設「かざぐるま」パレットを制作しているイコール社は建設されていませんでした。

今回行って現状の変化に驚きました。第二京阪道路は高架で遮音壁は片側だけでイコール社の上を通り排気ガスは周辺にまき散らされている。「かざぐるま」内では、ごみのいやな臭いがしてきました。又イコール社の方は当日は多量の黒煙は上がっていませんでしたが低地で廃プラ製品を化学薬品で溶かしたら有害な物質ガスが発生周囲に拡散

健所、イコール社に、翌日には大阪府に対して、①施設周辺住民への健康調査を早急に行うこと、②二つの施設は早急に操業を停止すること、③北河内4市リサイクル施設とイコール社に被害者に対する補償の措置をおこなうことの3項目の申し入れを行いました。(八嶋やよい記)

するのは当たり前ではないだろうが、廃プラリサイクルの名のもとにその影響をもろに受けて苦しんでおられる人々、イコール社の従業員の状態は分かりませんが、第二京阪も3月20日に開通し、排気ガスとも混合されますます廃プラ公害が広がることを恐れています。これはアスベスト同様行政の指導力のなさから来ているのかも知れません。

イコール社は公害は出していないということ、話は出来なかったようですが私が行った四条畷市役所ではなくす会の要望書のことにはよくわかりました、市長に届けますと、又同席された岸田議員からは市議会で取り上げて議論することを約束して引上げました。

上田幸雄(中津コーポ)